

# 酔客回帰へ 開店時間繰り上げ、予約制も

## 小樽・花園 酒提供再開で知恵

新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が道内で解除され、小樽の繁華街・花園の店があんどんがとまり始めた。小樽市内は道の独自対策で酒類提供は午後8時、営業は同9時までの時短要請となり、スナックやバーは開店時間繰り上げや予約制に対応。酒販店には飲食店から注文が殺到した。宣言解除直後の21、22日に記者が花園を歩き、なじみの店や客の声を聞いた。

(平田康人、鈴木孝典、谷本雄也)

### 酒販店には注文殺到

宣言が解除された21日、月ぶりにカウンターに立つ「BAR HATA」をた。開店は普段より1時間営業の八田康弘さん(57)は宣言解除の5月中旬以来約1カ月

あんどんをつけても目立たないが「カウンターに立つのがこんなうれしい」とは「と感慨に浸った。平日は並面、予約制とし、空気清浄機も1台から2台に増やした。かつての日常

が戻ったわけではなく、「まん延防止等重点措置」の対象地域の札幌市から客が流れてくる可能性もある。それでも再開でき「少しほっとした」。

同じころ別のスナックでは小樽商科大学院に通う石田滋夫さん(66)が「久々にママと会えた」とウイスキーの水割りを堪能していた。客は自分1人。人通りは戻っておらず、再開は様子見の店も多い。石田さん

は「開けている店が少ないと、客も来づらい」と漏らした。花園地区の酒販店「丸上上出商店」には21日、取引先の焼き鳥店やすし店から生ビールや樽の注文が相次いだ。この日だけで、コロナ禍以前でも例のない20店以上に配達。経営者で小樽小売酒販組合理事長を務める上出芳久さん(72)は、営業開始を早めた店舗に対応するため「午前から午後3時に配達依頼が集中して大忙しだった」と汗をぬぐった。ただ、翌22日の配達は8件と前日の3分の1

程度に。上出さんは「客の出控えは当面続くだろう。酒類の需要はすぐには戻らない」と冷静に受け止めた。佐藤愉子さん(46)が経営するスナックは22日、通常より2時間早い午後5時に営業を始めた。「開店が早いから空腹のお客さんが多いはず」とアサリのパス

など軽食を新たに用意。佐藤さんは「困ったと言っばかりでなく、この時代に合わせて考えを切り替えない」と、気を引き締めて話した。

「と」と前向きだ。花園では1年前の6月24日、日中のカラオケ「昼カラ」ができるスナック3店でクラスターが発生。計40人の感染が確認され、うち2人が死亡した。今年もスナックなどでクラスターが多発。北海道観光社交事業協会小樽支部幹事も務める佐藤さんは「花園からは絶対に感染者を出してはいけない」と肝に銘じている。

「と」と前向きだ。花園では1年前の6月24日、日中のカラオケ「昼カラ」ができるスナック3店でクラスターが発生。計40人の感染が確認され、うち2人が死亡した。今年もスナックなどでクラスターが多発。北海道観光社交事業協会小樽支部幹事も務める佐藤さんは「花園からは絶対に感染者を出してはいけない」と肝に銘じている。



①開店時間を繰り上げる店が多く、明るい時間からあんどんがとまった小樽の繁華街・花園。22日午後6時半  
 ②営業を再開した飲食店から注文が殺到し、在庫を確認する丸上上出商店の上出芳久さん。22日午後5時25分